

平成29年度第1回林業研究所試験研究評価委員会評価結果

試験研究評価委員会における評価委員（学識経験者2名、林業経営者1名、建築設計士1名）の評価結果の概要は以下のとおりです。

中間評価対象課題（1課題）

- 自然栽培可能な高温発生型きのこ栽培技術の開発

評価平均点 16.75点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： 期待以上の成果(1)、ある程度得られた(3)

目的達成の可能性： きわめて高い(1)、高い(3)

課題の取り扱い： 取組を飛躍的に強める(1)、取り組みを強める(3)

【主な意見】

- ・めずらしいきのこの可能性をさらに開拓してほしい。
- ・普及とマーケティングにも取り組めると良い。
- ・生産目的や予算などに応じたメニューを提案することで生産者を支援できるソフトがあると良い。

事前評価課題（2課題）

- 県産ヒノキ中径材から取れるラミナのヤング率推定に関する研究

評価平均点 15.75点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(3)、緊急に必要ではない(1)

新規独創性： 高い(4)

目的達成の可能性： 高い(4)

期待される効果： 大いに期待できる(1)、ある程度期待できる(3)

【主な意見】

- ・県産ヒノキの基礎データがいろいろ得られることを期待する。
- ・丸太の縦振動ヤング率が丸太全体のヤング率の平均を示すのであれば、その丸太から得られる様々な部位のラミナのヤング率を推定するには、どの様な指標が考えられるのかを知りたい。
- ・ラミナのデータが取れば他の研究にもつながると考える。

- スギ・ヒノキ コンテナ苗の効率的生産技術の開発

評価平均点 14.00点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(4)

新規独創性： 高い(2)、低い(2)

目的達成の可能性： 極めて高い(1)、高い(1)、低い(2)

期待される効果： 大いに期待できる(1)、ある程度期待できる(2)、あまり期待できない(1)

【主な意見】

- ・コスト・効率の目標を持って研究されることを望む。
- ・コンテナ苗の検討はコスト中心とし、種子や育苗の試験成果は、苗生産全般における基礎的情報の提供を目指せばよい。
- ・コンテナ苗に限らず、実生苗での効果的な育苗方法を検討され、通年栽培が可能な方法の開発を望む。